



→ 導入事例

モノづくり支援シェアファクトリー 「nuuiee (ヌーイー)」



<http://nuuiee.com/>

〒130-0011 東京都墨田区石原 3-12-9 (運営：株式会社小倉メリヤス製造所)

- ・レーザー加工機の用途：
 - 1) 会員制ファブ施設の利用機械
 - 2) 本業関連 (ワークショップ、営業サンプル、ファクトリーブランド支援等)
- ・使用機種：Trotec Speedy 100 レーザー加工機 (CO₂、40W)、Atmos Compact 集塵脱臭装置 (100V)



株式会社小倉メリヤス製造所
代表取締役社長 小倉 大典
企画生産担当 小倉 愛依
(写真右から敬称略)

レーザー加工機が紡ぐ、ファッション系モノづくりの世界

「nuuiee (ヌーイー)」は、2016年4月、「日本のニット産業発祥地」東京・墨田区にオープンしたファッション・テキスタイル系のファブ施設です。開設および運営は、1929年に創業した縫製工場、株式会社小倉メリヤス製造所。老舗が培ってきたファッションプロダクトのノウハウと最新のデジタル機械を提供し、モノづくりをトータルに支援しています。トロテックのレーザー加工機をこの施設に導入した理由や実際の活用状況を、社長の小倉大典 (おぐら だいすけ) 氏と機械講習を担当している社長夫人の小倉愛依 (おぐら あい) 氏にお話を伺いました。

なぜトロテックのレーザー加工機を導入したのですか。

【小倉社長】最初は別のメーカーを調べてアポを取ったのですが、同じ墨田区の経営者仲間からトロテックを紹介されました。正直、「糸へん」にこだわったモノづくり施設を開設したかったので、テキスタイルのインクジェット機やデジタル刺繍機と比べてレーザー加工機はあまり必要ないのではないかと感じていましたが、トロテックの営業に「レーザーで切ると糸がほつれないし、名入れ彫刻もできます。しかも加工スピードが速いのでこんなに沢山のモノがスムーズに作れます」と、実際にデモしてもらい、ボタンや生地への活用方法を聞いて「行けるかも！」と思ったからです。



布地に nuuiee のロゴをレーザー加工



レーザー加工機の講習

実際にレーザー加工機を導入していかがですか。

【小倉社長】この施設をオープンして4月で1年経ちますが、圧倒的に稼働しているのがレーザー加工機です。この施設には有料の機械が5台ありますが、講習や機械使用が一番予約が入るのがレーザー加工機です。

どのような利用者が多いですか。また加工で多い材料は？

【小倉社長】建築関係など、布や糸へんに関係ない方の利用が多いです。ファッションやアパレルブランドの方でも、ノベルティの箱などにロゴ入れするために来られます。テキスタイルではお人形の洋服やバッグ、小物を作る方が半数以上です。

【小倉愛依氏】お人形の洋服は小さなパーツが多すぎるため、ハサミを使って手で切るのは大変ですが、イラストレーターが得意なお客様はデータを作成して、ここのレーザー加工機で切って縫うだけなので「すごく楽」と言っています。しかもレーザーなら布端もほつれませんので、縫製もスムーズにできます。お人形の浴衣と合わせて、レーザーで木をカットして穴を開け、紐を通して下駄も作っていました。また市販では見つけるのが難しいお人形用の小さなチェック柄や小花柄の布地も、この施設の機械でプリントして、すぐにこのレーザー加工機で裁断できるので便利に製作できます。

レーザー加工で多い材料は、木材とアクリルが 30% ずつくらいで、次に革が約 20% です。

施設以外に、レーザー加工機を利用されていますか。

【小倉社長】この施設は一般の利用者向けに開放していますが、本業の B to B 営業のきっかけにも活用したいと思っています。例えば、本業は子供服の下請けが多いので、ニットの街墨田区で創業して 90 年近い縫製工場が、ニットとメリヤスの話ができて、レーザー加工機を使った子供たちのワークショップもできるということ、子供服を発注するお客様も大変ありがたがってくれます。

【小倉愛依氏】ワークショップの例では、JTБ と三井ららぼーとのコラボでガマ口財布を作りました。子供たちが裏と表で色や模様が違う布から好きなものを選び、お財布とそれにつける紐を作るというイベントです。実際のワークショップで使用したパーツは裁断から縫製まで工場で行いましたが、企画の段階ではこのレーザーを使ってサンプリングを作りました。レーザーならハサミで切らないので生地がほつれず、



ワークショップ用に企画したガマ口財布（上）と裁断した財布のパーツ（右下）

ガタガタにもならず、縫ってひっくり返すだけでいくらかでもサンプルが作れます。

→ トロテック・レーザー・ジャパン株式会社

www.troteclaser.com

Email: info@trotec.co.jp

【小倉社長】またアパレルのお客様がこの施設にいらして、デジタル刺繍機は知っているがレーザー加工機を見て「これ何？」と質問されます。布だけではなく、木やアクリルなども切れて、彫刻もできるので、オーダーメイドのボタンなどが作れますと説明すると、「ボタンも作ってくれませんか？」と。一般的にボタン製作には何万個のロット発注が必要ですが、今は大量生産ではないアパレルのお客様が多いので、数十個を製作したり、プロトタイプングや試作でイメージを確認するためのサンプルを何個か作ったりしています。

現在、私はニット工業組合青年部の副代表をしていて、墨田区の地場産業の一つ、「ニットの街」をまず盛り上げたいという使命感があるので、このようにレーザー加工機と本業を結び付けて、自社ブランドやファクトリーブランドのバックアップをしていきたいと思っています。



社名をレーザーマーキングしたコルク材のコースター（上）と nuuiee のロゴをレーザー彫刻したボタン（下）

レーザー加工機を導入して良かったことは？

【小倉社長】布とレーザー加工機はイコールにならない。だから最初はあまり要らないのではないかと考えていましたが、今は全く逆です。利用者の皆さんは「布」ではなく「ファッション」という大きな括りで見えます。だから元々はピアスなどのアクリル製アクセサリを作るためにレーザー加工機を利用する目的でこの施設にいらした方が、「デジタル刺繍機を使うとこんなに簡単に刺繍ができる」、「インクジェットプリンターでこんなに簡単にTシャツにプリントできる」など、レーザー加工機以外の機械への興味と利用にもつながってくれているので、レーザー加工機で「ファッションの入り口が広がる」を実感しています。



レーザーで模様を描いたデニムのバッグ。黄色の裏地が映えるようにレーザーでカットも。

※本文はインタビューの一部です。全文はトロテックのウェブサイト、導入事例「nuuiee（ヌーイー）」をご覧ください。

※本文に記載している機械の機能・効果・仕様等は、取材時の情報です。

（取材 2017 年 5 月）



www.facebook.com/troteclaserjapan

twitter.com/trotec_japan